

(現状と課題)

太枠内をボールペンで強くご記入ください。

総合判定		内視鏡検査医が記
1 精密検査不要 2 要精密検査または要治療（胃がん・疑い） 3 要治療・要受診（胃がん以外） 4 ビロリ菌感染性胃炎の疑い（要受診） 5 その他（検査中断、描出不良）（理由：	1.当院で精密検査または治療実施 2.他院へ紹介 医療機関名〔	

内視鏡検査医

胃がん以外の所見・診断

1 胃腺癌	2 胃過形成性ポリープ	3 胃潰瘍 (A H S)
4 H.pylori感染 (現・昨・未・不明)	5 胃粘下腫瘍	6 胃腺癌ポリープ
7 十二指腸潰瘍 (A H S)	8 食道癌	9 逆流性食道炎
10 その他	11 その他	12 その他

胃がん検診中(後の胃がん)の有無 1) なし 2) あり ※2) あり 陽性結果を報告する時、陽性結果を報告し、検出してくたさい

検診の結果報告書は、所見の範囲および所見の種類を下の口に簡潔書き (1) (2) (3) を記入してください

☐ 悪性を疑う所見あり		☐ 悪性を疑う所見なし	
☐ 食道胃接合部 ☐ 膣口部 ☐ 穹隆部 ☐ その他	☐ 体上部 ☐ 体中部 ☐ 体下部 ☐ 前庭部 ☐ 膣門部 ☐ 後壁	☐ 小腸 ☐ 大腸 ☐ 前壁 ☐ 後壁	内視鏡 0型 ☐ Ⅰ ☐ Ⅱa ☐ Ⅱa+Ⅱc ☐ Ⅱb ☐ Ⅱc ☐ Ⅱc+Ⅱa ☐ Ⅲ+Ⅱc ☐ その他 不明 1~5型 ☐ 1型 ☐ 2型 ☐ 3型 ☐ 4型 ☐ 5型 ☐ 不明
判定困難 ※ 1 胃がんなし 2 胃がんなし・経過観察または治療が必要 3 胃がん疑い 4 胃がん 5 胃がん以外の悪性病変（疑いも含む）		生検の詳由 ☐ 不要 ☐ 妥当 (追加の)精査検査の必要性 ☐ あり ☐ なし	
コメント（※一次読影と所見の異なる場合は、内容を記載してください）			

1 胃腺腫	2 胃過形成性ポリープ	3 胃潰瘍 (A H S)	
4 H pylori感染 (現・昨・未・不明)	5 胃粘膜下腫瘍	6 胃癌様ポリープ	
7 十二指腸潰瘍 (A H S)	8 食道がん	9 逆流性食道炎	
10 その他			
年 月 日サイン ※「〇」欄に印鑑とし、印鑑がない場合は「確定診断の医師名」を記入して下さい。			医療機関コード

生後をした場合は、二次審査判定後に内視鏡検査医が記入してください。三審結果として最終に反映します
最も優先順位の高いものを下記の項目より選択してください。

1. 胃を認める
2. 早期胃がん(粘膜内がん(深達度M))
3. 早期胃がんⅠ期(深達度SM)
4. 進行胃がん(深達度MP以上)
5. 胃がん(進行期不明)
6. 胃がん疑い
7. 胃癌
8. 胃ポリープ(過形成性)
9. 胃ポリープ(胃癌性)
10. 胃癌
11. 胃癌
12. 胃粘膜下腫瘍
13. 悪性リンパ腫
14. その他
15. その他の疾患

※2~5の場合、いずれかに○ ⇒ 顕発性 ・ 転移性 ・ 不明

(大津市控) 2024.8

- ・「不明」に記載する場合は、「0型」または「1～5型」のどちらに記載したらよいか判断しづらい。

(2) 胃内視鏡検査の検診票について (現状と課題)

大津市胃がん検診協議会

第1回(R6.8.29)

資料4-2

③比較読影について

- ・内視鏡検診を実施して7年が経過した。令和5年度受診者数1348名中335名が今までに大津市の内視鏡検査を受診しており、約25%にあたる
- ・検診票に「比較読影した」とのチェック欄を作成し、前回分の画像をつけて2次読影に回していくという案が、実施可能であるか

【検討したいこと】

- ①肉眼分類の付け方について
胃がんでなかった場合に肉眼分類の記入をどうするべきか。

- ②ピロリ菌除菌後の方の検診について
どのような状況になると、大津市の検診でのフォローで良いという判断になるのか。

- ③比較読影について
チェック欄の新設と、前回分の画像をつけて2次読影に回すことが実施可能か。

③

内視鏡検査医		検査医療機関		医師情報		案	
☐ 比較読影あり → (口過去との変化あり) ☐ 過去との変化なし) ☐ 比較読影なし							
☐ 食道胃接合部 ☐ 体上部 ☐ 胃角部 ☐ 小弯 ☐ 肉 ☐ 0型 ☐ I ☐ IIa ☐ IIa+IIc ☐ IIb ☐ IIc ☐ IIc+III ☐ IIc+IIa ☐ III+IIc ☐ III ☐ その他() ☐ 不明							
☐ 噴門部 ☐ 体中部 ☐ 前庭部 ☐ 大弯 ☐ 眼 ☐ 1~5型 ☐ 1型 ☐ 2型 ☐ 3型 ☐ 4型 ☐ 5型 ☐ 不明							
☐ 胃体部 ☐ 体下部 ☐ 幽門横 ☐ 前壁 ☐ 後壁 ☐ 頻							
☐ その他() ☐ 意道 ☐ 十二指腸 ☐ 後壁							
判定		生検結果		コメント		図解	
判定区分 0 判定困難 1 胃がんなし 2 胃がんなし・経過観察または治療が必要 3 胃がん疑い 4 胃がん 5 胃がん以外の悪性病変(疑いを含む)		(1) (胃・腸) Group 0X 01 02 03 04 05 (2) (胃・腸) Group 0X 01 02 03 04 05 (3) (胃・腸) Group 0X 01 02 03 04 05 (4) (胃・腸) Group 0X 01 02 03 04 05		胃がん以外の所見・診断 1 胃腺腫 2 胃過形成性ポリープ 3 胃潰瘍(A, H, S) 4 H.pylori感染(現・既・未・不明) 5 胃粘膜下腫瘍 6 胃癌様ポリープ 7 十二指腸潰瘍(A, H, S) 8 食道がん 9 逆流性食道炎 10 その他() 胃がん検診中/後の発見症の有無 1) なし 2) あり ※2) ありと回答の場合は所見欄に検出された所見を記載してください			
☐ 比較読影あり → (口過去との変化あり) ☐ 過去との変化なし) ☐ 比較読影なし							
☐ 食道胃接合部 ☐ 体上部 ☐ 胃角部 ☐ 小弯 ☐ 肉 ☐ 0型 ☐ I ☐ IIa ☐ IIa+IIc ☐ IIb ☐ IIc ☐ IIc+III ☐ IIc+IIa ☐ III+IIc ☐ III ☐ その他() ☐ 不明							
☐ 噴門部 ☐ 体中部 ☐ 前庭部 ☐ 大弯 ☐ 眼 ☐ 1~5型 ☐ 1型 ☐ 2型 ☐ 3型 ☐ 4型 ☐ 5型 ☐ 不明							
☐ 胃体部 ☐ 体下部 ☐ 幽門横 ☐ 前壁 ☐ 後壁 ☐ 頻							
☐ その他() ☐ 意道 ☐ 十二指腸 ☐ 後壁							
判定		生検結果		コメント		図解	
判定区分 0 判定困難 ※ 1 胃がんなし 2 胃がんなし・経過観察または治療が必要 3 胃がん疑い 4 胃がん 5 胃がん以外の悪性病変(疑いを含む)		生検の結果 ☐ 不要 ☐ 妥当 ☐ 追加の精密検査の必要性 ☐ あり ☐ なし		追加の精密検査の必要性 ☐ あり ☐ なし			
コメント(※一次読影と所見の異なる場合は、内容を記載してください)							
胃がん以外の所見・診断 1 胃腺腫 2 胃過形成性ポリープ 3 胃潰瘍(A, H, S) 4 H.pylori感染(現・既・未・不明) 5 胃粘膜下腫瘍 6 胃癌様ポリープ 7 十二指腸潰瘍(A, H, S) 8 食道がん 9 逆流性食道炎 10 その他()							
二次読影医 年 月 日 サイン							
※「0 判定困難」と判定した場合は、「精密検査の必要性：あり」としてください。							
生検をした場合は、二次読影判定後に内視鏡検査医が記入してください。三種読影等として統計に反映します 最も優先順位の高いものを下記の項目より選択してください。							
1. 異常認めず 2. 早期胃がん(粘膜内がん(壁厚浸透度M)) 3. 早期胃がんI期(壁厚浸透度SM) 4. 進行胃がん(壁厚浸透度MP以上) 5. 胃がん(進行期不明) 6. 胃がん疑い 7. 胃腺腫 8. 胃ポリープ(過形成性) 9. 胃ポリープ(胃癌様) 10. 胃潰瘍 11. 胃炎 12. 胃粘膜下腫瘍 13. 悪性リンパ腫 14. その他の疾患							
※2~5の場合、いずれかにO ⇒ 原発性・転移性・不明							